



1 開通を祝うフラダンス 2 渡り初め 3 テープカット
4 昭和48年の旧戸馳大橋開通の写真を懐かしむ住民たち
5 橋名板を書いた中学生らに感謝状が贈られました 6 旧戸馳大橋には、戸馳島に住む子どもたちの手形と「ありがとう」の文字が 7 午後4時に通行開始 8 バルーンリリース
9 しっかりとした基礎がみんなの安全を守る 10 万歳三唱



新しい橋には、歩道が整備されているので、自転車通学の生徒たちも安全に渡ることができて、本当に安心ですね。

開通記念Tシャツをデザインしました。暖かい花の島をイメージしながら、戸馳島のいいところを残したいと思い、形にしました。



渡り初めができて、うれしかったよ！

杉村 夢花ちゃん

オレンジ色の戸馳大橋がなくなるのは、少しさみしい気持ちがあります。でも、安全性が高まったことが一番ですね。



積ルミ子さん

念願の架け替えでした。車も歩行者も安心して通行することができます。大型車も通行できるので経済面にも期待を寄せています。



池田 和喜さん

VOICE
喜びの声 続々

発展への架け橋

記念式典

3月30日、開通を祝う式典が三角B&G海洋センターで開かれ、国會議員や県議會議員、国土交通省、熊本県、施工業者、市関係者など約120人が出席し、完成を祝いました。守田憲史市長は「今後は、地域間交流の拡大や、世界文化遺産となった三角西港など近隣の観光地域との広域連携が円滑になることで、戸馳地区の発展につながると確信している。開通とともに地域発展への取り組みをさらに推進していきたい」とあいさつしました。

施工業者や橋名板を揮毫した三角中の生徒には、市から感謝状が贈られ、式の最後には、万歳三唱の音が響き渡っていました。

式典後には、新しい橋に移り、守田市長らがテープカット。青空に風船も放たれ、住民ら約



300人がその一部始終を見守りました。

渡り初めでは、戸馳島在住の親子3世代2組を先頭に雨乞い太鼓が続き、その後を市長や住民らがゆつくりと島から黒崎区へと渡り、完成を祝福しました。

祖母や両親らと渡り初めをした杉村清さん(36)は「家族そろって貴重な体験ができた」とにっこり。平原将克さん(36)は「家族の思い出になった。歩道ができ、子どもたちも安全に通れる」と笑顔で話していました。

手作りのイベント

旧戸馳小学校では、住民主催の開通記念イベントが開かれ、住民たちは、出し物や餅投げなどを楽しみながら、島を挙げて完成を祝いました。



未来へつなげる思い

行する様子が見られ、通行開始とともにその役目を終えた旧橋では、市内のフラダンス愛好家約200人が祝いの踊りで開通に華を添えました。

46年前まで離島だった戸馳島。それまでは、渡し舟を利用し、行き来していました。昭和48年に旧戸馳大橋が架橋されると、島の交通事情は大きく変化。当時、ハウス園芸のモデルケースだった花卉団地からの花の出荷などにも拍車を掛け、経済の発展に貢献してきました。

島の動脈として長年親しまれてきたオレンジ色の旧橋は今後2年をかけて解体されますが、新橋は、歩行者と車両の通行の安全性が各段に向上しています。これまででかけられていた14トンの重量規制も解除。国道266号との交差点も改良され、大型車の通行が可能となりました。

新橋は、これまで以上に経済面での効果を上げ、地域の新しいシンボルとして市民に親しまれ、戸馳地区や市の発展への架け橋となることでしょう。